

マイコトキシンの毒性発現機序・健康リスク評価
食と環境の科学賞、受賞

小西良子 国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部部长

シックハウス症候群研究
食と環境の科学賞功労賞、受賞

石川 哲 元北里大学医学部長、北里大学名誉教授

～遠山椿吉記念 第3回 食と環境の科学賞 授賞式、2月5日開催！～

財団法人東京顕微鏡院

医療法人社団こころとからだの元氣プラザ

昨年創業 120 周年を迎えた財団法人東京顕微鏡院と同財団の保健医療部門をルーツとする医療法人社団こころとからだの元氣プラザは、公衆衛生と予防医療に貢献する研究者の顕彰制度「遠山椿吉記念 第3回 食と環境の科学賞（遠山椿吉賞）」に、カビ毒とも呼ばれるマイコトキシンの毒性発現機序ならびに健康リスク評価に関する研究の功績により、小西良子 国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部部长の授賞を決定しました。

また、シックハウス症候群、化学物質過敏症および関連疾患の診断、治療、疫学、対策に関する研究の功績により、特例として「遠山椿吉記念 第3回 食と環境の科学賞（遠山椿吉賞）功労賞」を設け、石川哲（いしかわ さとし）元 北里大学医学部長、元 日本臨床環境医学会理事長、北里大学名誉教授に贈呈することを決定しました。石川氏は眼科領域において多数の優れた受賞歴がありますが、公衆衛生と予防においての顕彰は初めてです。

遠山椿吉賞は、選考委員会による厳正な審査を経て、選考委員長が同席する当財団・医療法人経営会議による協議の結果、決定しました。

授賞式・記念講演は、平成 25 年 2 月 5 日（火）、都内で関係者を招き開催いたします。

授賞理由

小西氏：マイコトキシンは、ヒトや動物に発がんや消化器障害など多様な健康被害を起こすカビの二次代謝物である。自然毒であるため気候・気象に影響を受けやすく、制御は非常に困難で、熱に耐性であるため食品衛生上大きな問題となっている。世界的温暖化傾向にある中、先駆的テーマであるマイコトキシンの毒性に関して、強いリーダーシップを持って研究をけん引し、実験室の実験から厚生行政施策への反映まで、公衆衛生的視点からシステムティックにアプローチし、国際的に影響力をもつ業績に仕上げた社会的貢献は高く評価できる。（尚、受賞者は、現在マイコトキシン学会会長、平成 18 年度マイコトキシン学会学術賞受賞。）

石川氏：現在、社会的に問題となっているシックハウス症候群、化学物質過敏症問題のパイオニアで、基礎医学的研究・臨床医学的研究から問題提起をし、診断法・治療法およびこれらの疾患の対策について、後世へつながる多くの業績を残している。空気汚染による人体影響を、臨床医として得た端緒から疫学的手法で環境要因を探り出し、診断法を確立し、世界に発信してきたことは称賛に値する。（尚、受賞者は、現在米国環境医学会アカデミー委員、平成 8 年に同学会最高賞のジョナサン・フォアマン賞を受賞。）

*遠山椿吉賞について詳細は添付をご覧ください。

報道機関からのお問合せ先：

公益事業室 担当 三橋（みつはし） TEL03-5210-6651 メール：mitsu@kenko-kenbi.or.jp

遠山椿吉賞について

創業者遠山椿吉、生誕 150 年没後 80 年である平成 20 年度に創設し、「食と環境の科学」部門、「健康予防医療」部門を、隔年で選考顕彰しています。

本賞の趣旨：

創業者遠山椿吉の生き方を尊重し、病を予防あるいは早期に発見し治療へつなげるという予防医療の基本目標について、地道に社会への貢献を追求する研究者を顕彰する賞と位置づけています。

賞の趣旨として、過去 5 年以内の業績を評価対象とし、すでに他の顕彰対象となったものは選考資料として採用しないことを定めて選考顕彰を行います。

目的：

遠山椿吉賞は、公衆衛生の領域で、人びとの危険を除き、命を守るために、先駆的かつグローバルな視点で優秀な業績をあげた個人または研究グループを顕彰し、公衆衛生の領域での学術向上に寄与することを目的とします。

審査・選考および概要：

自薦、他薦による候補者の中から数次にわたる厳正な審査を経て、両法人外の 7 名の選考委員が選考委員会において受賞候補者を決定し、選考委員長が同席する両法人経営会議で受賞者 1 名を決定しています。授賞式では受賞者による受賞記念講演会等を開催し、受賞者には、賞状と記念品および副賞賞金 100 万円が贈呈されます。ただし、本賞の趣旨に鑑み、選考委員会から特別に推薦のあった場合は、主催する両法人経営会議の承認を得て顕彰を行います。

本年度の優先課題：

食品の安全と生活環境衛生としました。

遠山椿吉とは：

明治時代に、日本で初めて臨床検査の専門機関「東京顕微鏡院」を創立し、技師の養成、学会誌発行、市民への普及啓発など公衆衛生に力を尽くした細菌学者、医学博士。初代東京市衛生試験所所長を兼任し、伝染病予防のため水質に着眼し、東京に安全な水道水の供給を実現。予防医療を提唱して健康診査を実施しました。

過去の受賞者：次ページをご覧ください。

過去の受賞者：

遠山椿吉記念 食と環境の科学賞（遠山椿吉賞）

回	遠山椿吉賞	遠山椿吉賞 奨励賞
第1回 (平成 20年 度)	ノロウイルスによる食中毒の発生要因の解明と予防策の樹立に関する研究 西尾 治 国立感染症研究所 感染症情報センター 研究員	食品衛生微生物の簡易迅速検査法の開発と有効性の評価、食品衛生向上手法の開発 川崎 晋 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所
回	遠山椿吉賞	遠山椿吉賞 特別賞
第2回 (平成 22年 度)	魚介類アレルギーの同定と分子生物学的性状の解明ならびに検査法開発に関する研究 塩見 一雄 国立大学法人 東京海洋大学 教授	食と環境の難分解性環境汚染物質の長期モニタリング 小泉 昭夫 京都大学大学院医学研究科環境衛生学分野 教授

※所属は受賞当時

遠山椿吉記念 健康予防医療賞（遠山椿吉賞）

回	遠山椿吉賞	遠山椿吉賞 特別賞
第1回 (平成 21年 度)	高齢者の生活機能の維持・向上と介護予防を目的とした包括的健診の開発と普及についての調査研究 —超高齢社会における新たな健康維持と予防医療へ向けての科学的取組み— 鈴木 隆雄 国立長寿医療センター研究所 所長 ※上記は、東京都老人総合研究所（現 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター）在職時における研究成果である。	国際標準化を通じた国内臨床検査室の脂質測定精度の向上とその臨床研究・疫学研究・公衆衛生施策への応用 中村 雅一 大阪府立健康科学センター 脂質基準分析室 室長
回	遠山椿吉賞	遠山椿吉賞 特別記念賞
第2回 (平成 23年 度)	骨粗鬆症診療体制の確立にむけての臨床疫学コホートの構築 (Nagano Cohort 研究) 白木 正孝 成人病診療研究所 所長	生活習慣病の時代的変遷およびその現状と課題に関する疫学調査（久山町研究） 久山町研究グループ 代表：清原 裕（九州大学大学院医学研究院環境医学分野 教授）

※所属は受賞当時